



## 外科系医師のための手術に役立つ臨床研究

本多通孝著. -- 医学書院, 2017.

ISBN: 9784260032599

REVIEWER

医学研究科 社会健康医学系専攻  
M1

### そうなんです！外科系の臨床研究ヤバイんです！

「外科医として経験を積みば積むほど、手術に関する臨床研究の成果がいかに危ういものであるかを肌身に染みて感じとっている」という一文に本書の意義が集約されているように思います。

外科系領域に「研究デザイン論」を普及することを目標とした本書には強く共感させられます。私も外科系の医師ですが、お師匠からよく「学会や論文で発表されていることは、都合よく操作された情報だから感わされるな！目の前の患者をみて考えろ！」と言われたものです。かなりの極論ですが、当たらずとも遠からず。自分の所属する学会の発表や、参考にする論文を振り返ると（信じがたいのですが）ちょっと問題がある研究ばかり。その原因は多忙な臨床の合間を縫って研究するガッツがある医師たちにあるわけではなく、「研究デザイン論」の欠如であることを知る者は意外と多くありません。

本書は研究計画書の各項目を解説しながら書き進めていく構成がとられており、研究を進めながら該当箇所を読むことで自分の研究が磨かれる実践的な本です。随所に「オーベン外科医」と「シワシワ君」や「ギラギラ君」との掛け合い、著者独特のユーモアある言い回し、様々な外科系診療科における研究の実例紹介などがちりばめられ理解し易く、ストレスなく読むことができます。

490

7

H 84

医図開架

(裏へ続きます)

⇒⇒⇒

著者の本多先生は臨床の外科医として活躍される一方、多くの質の高い臨床研究論文を発表され、若くして福島県立医大の教授としてすでに複数の医局員を指導されている実績のある方です。その経験を元にした本書には現場でのニーズをふまえた説得力があります。また「外科系医師を対象」ということになっていますが、「手術のような強力な介入」を題材にしているわけですので、外科系医師のみならずすべての医療従事者にとって有用な本であると思います。

全く「研究デザイン論」の免疫がないゴリゴリの外科医にとってはちょっと文章量が負担になる気がしましたので星4つとしましたが、多くの臨床研究初学者にこの本を読んでいただき、「研究デザイン論」にはまり込む者が増えていくことを切に願います。

受理：2018-04-20